

平成30年度町政懇談会の意見・質問

平成30年度の町政懇談会は、2月に各地区で計7回開かれ、66名の町民の皆さまに参加していただきました。

懇談会では、まず町から、「マイナンバーカード」、「町立診療所の名称変更」

「幌延町バイオマス産業都市構想」、「JR北海道の経営改善等における現状報告」について説明がありました。その後、参加された皆さまと町政全般について意見を交わしました。



ここで、皆さまからいただいた意見や質問を抜粋して紹介します。

◆ 昨年の胆振東部地震による全域停電（ブラックアウト）時の対応について

Q 告知端末機（IP電話）が使えなかった。緊急時に町が流す情報を知る手段はあるのか。

A 告知端末機を使って流す情報をそのままスマートフォンで受け取ることができるとシステムがあります。平成31年度予算で告知端末機更新を予定しており、今後に備えます。

Q 避難所は開設したのか。
A 保健センターと問寒別生涯学習センターに避難所を設けました。一人暮らしで周りの人の助けが必要と思われる人に避難を呼び掛け、2カ所に計6人が避難しました。

Q 再び全域停電になった時のために、町は対策や避難計画などを整えたのか。

A 明確な対策は未整備ですが、備蓄食糧、小型発電機、ストーブ、簡易ベッドなどをそろえます。大型発電機の購入も検討しています。広報車の音声がかえりませんでしたという意見も多かったため、より丁寧に放送したいと考えています。

◆ バイオマス産業都市構想について

Q 牛100頭規模でのバイオマス事業は、幌延独自の構想か。

A そうです。町内の酪農家の多くが100頭規模である幌延の特徴です。牛のふん尿を電気や肥料に変える施設を量産化し、割安で建設できるようなモデルを作り、維持管理を地元でまかえるようになれば、雇用

の場の創出にもつながります。

Q どの農家も経営は厳しい。自己負担が多額なら、事業に手を出しにくいと思う。

A 事業費を回収するには、売電収入などから試算すると約20年かかり、容易ではありません。ただ、牛のふん尿を土にやさしく、生産性の高い液肥に変える上、既存肥料を減らすことができ、環境汚染を防ぐ手段になります。将来にわたり、幌延の大地や酪農を守る方針になると考えています。

Q 町内の酪農家にこの事業に対する意識調査はしたのか。

A 町が実施したアンケートによると、約20軒の酪農家が興味を持ってきています。国から事業費の3分の1の補助も受けられます。今年1年は酪農家と協力し、

どうすれば費用を抑えられるかシミュレーションを行い、幌延モデルを作り上げていきたいです。

◆ 橋や道路の工事について

Q 問寒別橋の橋梁の補修が平成31年度に始まると聞いたが、片側通行はできるのか。

A 工事業者には片側通行できるように要請しています。時期によっては全面通行止めになる可能性があるかもしれません。

Q 雄信内大橋の工事の進捗状況は。

A 工事は稚内建設管理部が進めており、昨年の橋脚補修は終わりました。ただ、今年も他の補修部があるところで町としては片側通行をさせてほしいと要望しています。